

## 地域の地図を囲んでまちを再発見！

(京都府京都市、宮城県仙台市、東京都立川市にて実施したカフェ)

開催詳細：P45～50 参照

よく知っている自分の街でも、「避難所はどこ?」「避難所まではどうやって行ったらいい?」と聞かれると、言葉につまってしまうのではないのでしょうか。

そこで、昼間に地震が起きたときにも街にいる主婦の方々に参加して頂き、地域の地図を使ったワークショップを実施しました。



### 【開催概要】

#### まちの地図づくりとマップシミュレーション



自分が住む地域の大きな地図を使って、自分の家、寝たきりのお年寄りや病気の家の家、外国の方が住んでいる家等にシールを貼り、地域の状況を把握しました。

次に、自治体が発行している「防災マップ」を参考に、最寄りの避難所と広域避難場所、防災倉庫、病院等をマーカーで囲んでいきました。

マップシミュレーションでは、今地震が起きたという想定でラジオニュースを読み上げ、ニュースから読み取れる被害情報をもとに、避難経路を考えて頂きました。次々と流れる情報の中から、自分の避難に必要な情報を選び、どのルートで避難するか判断することの大変さを体験しました。

#### 避難経路、避難所での料理の献立を考える

避難所には子どもからお年寄りまで様々な人が避難します。ここでは、限られた食材を使ってみんなに喜んでもらえるメニューを考えて頂きました。

「あったかいスープや味噌汁は、ほっとするよね」

「おにぎりだけじゃ飽きちゃうから、雑炊もいいわね」といった意見が出されました。

避難所での生活は、食事などいろいろな事に配慮しなければならないことを知りました。



食材		
・米 30kg	・きゅうり 40本	・冷凍うどん 10本
・たけのこ 5kg	・にんじん 26本	・しょうゆ 2L
・キャベツ 12コ	・ねぎ 20本	・みそ 10kg
・トマト 1箱	・そばめん 2箱	・水 100L

### 【参加者の感想】

- ・ 今まで自分の街を分かっていたつもりでしたが、病院、公衆電話の位置等を再確認できました。
- ・ 自分の地域をきちんと把握することが重要だと感じました。近所を散歩するついでに、自宅周辺の施設を探索しようと思います。
- ・ 地図に被害箇所等の色々な条件をマークしてみて、避難の大変さが分かりました。
- ・ できるだけ行政に頼らずに、自分でできることは自分でやらなければと感じました。
- ・ パートをしている職場でも、今回のように地図に書き入れながら考えてみたいです。

### 【ファシリテーターのコメント】

災害時は、行政に頼らずに「自分で出来ることは自分ですること（自助）」、「共に助け合うこと（共助）」の意識をもつ事が大切です。

**マップシミュレーションを通して、住んでいるまちを知ること、避難するときや避難生活時に私たちができることを考えることで、いざという時の落ち着いた行動と柔軟な発想力を育てることができます。**

大切なことは「**自分たちで考えて行動すること**」それに尽きます。

「ぼうさい塾・わがまち減災・MAPシミュレーション ファシリテーターの手引書 日本生活協同組合連合会」抜粋

### 【まとめ】

マップシミュレーションは、自分の町を「ぼうさい」の観点から再発見できるとともに、地図上で災害時の行動等を具体的に考えることができる有効なツールです。

特徴として、

市区町村単位、地区単位、町内会単位等で実施することができます。

1グループは5～8人程度で構成するのが理想的です。またグループの中でリーダー、記録係等を決めると作業がしやすいです。

地図、筆記用具、付箋、シール、防災マップ、マーカーがあればできます。

一度マップシミュレーションを体験すると自分の町内会等に持ち帰って実施することができます。



準備品はこれだけ！

### 【やってみませんか】

町内会の集まりや町内会の防災イベントとして、マップシミュレーションを実施するにあたり、例えば、「ぼうさい塾・わがまち減災・MAPシミュレーション ファシリテーターの手引書 日本生活協同組合連合会」が参考となります。

